

坂下中学校区における学校統合に向けた基本方針（中間案） に対する市民意見公募の結果

1 意見募集期間

令和8年2月9日（月）から3月11日（水）まで

2 公表資料

- (1) 坂下中学校区における学校統合に向けた基本方針（中間案）
- (2) 【概要版】坂下中学校区における学校統合に向けた基本方針（中間案）

3 公表場所

市ホームページ、学校教育課、市役所情報コーナー、坂下出張所、各ふれあいセンター、各公民館、東部市民センター、保健センター、総合保健医療センター、グループふじとう

4 意見の提出方法

あいち電子申請・届出システム、市公式LINEの「提案・意見」、電子メール、直接か郵送、ファクスのいずれかの方法で、学校教育課へ提出

5 市民意見公募の結果

意見提出者 11人 25件

【意見の分類と件数】

意見の分類	件数
今後の進め方	6件
通学	4件
少人数学級	4件
魅力ある学校づくり	3件
学校施設	2件
学校選択制	1件
アンケート	1件
子どもの家	1件
小中一貫教育	1件
不登校対策	1件
その他	1件
合計	25件

6 意見及び考え方

(1) 全体としての考え方

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。坂下中学校区の学校統合に向けた基本方針（中間案）に対し、それぞれの方がそれぞれの視点で、本市の取組への期待や課題などのご意見をお寄せくださいました。

ご意見は提出者ごとに記載し、内容を種類別に分類しています。なお、複数のご意見をお寄せいただいた方は、「No.〇—1」のように枝番を付して表記しています。

今回、本中間案に対して具体的な提案を含め、様々なご意見をいただきましたが、本中間案の修正に反映させるものはございませんでした。

いただいたご意見も踏まえ、引き続き、保護者や地域の方と丁寧に対話や議論を積み重ねながら、坂下中学校区の学校統合に向けた検討を進めていきます。

(2) それぞれの意見に対する考え方

No.	分類	意見の要旨	市の考え方
1	学校選択制	<p>全体的な話ですが、そもそも校区の概念を無くせば良いかと思えます。</p> <p>クラス人数が問題であれば、ある学年学期の間、勝川など他の児童生徒を坂下などに編入、またはその逆を行うのはいかがでしょう。</p> <p>学校統合でバス送迎が必要となるなら、距離の問題は少なくなり、他校で多くの人と過ごせるので本来の目的である社会性も身につきます。</p> <p>また、児童生徒によっては人が多すぎる事で閉塞感を感じる人もいるかもしれませんし、様々な所で多くの人と触れ合いたい人もいます。時期や期間は子ども自身や保護者の意向で柔軟に対応すればよいと思えます。</p> <p>春日井市は名古屋市も山も近い場所に位置しているので、可能であれば、例えば田植えが体験できるなど市内各学校に個別の特色を持たせて、子どもたちがそこでしか得られないものができるとうれしいと思えます。</p>	<p>住所によって指定された学校に通うのではなく、保護者や児童生徒が自らの希望で入学する学校を選ぶことができる「学校選択制」は、子どもの個性や教育環境に合わせて最適な学校を選ぶことができると考えられます。</p> <p>一方で、通学距離が長くなることによる登下校の安全性の確保が課題となります。また、学校は地域コミュニティの核としての性格を持ち、地域のまちづくりのあり方と密接に結びついていることから、学校選択制により、地域と学校の結びつきを弱めてしまうことも考えられます。</p> <p>今後、市全域で少子化が進んでいくことが推定される中、学校選択制を導入しても、全ての学校の小規模化を防ぐことは難しいと考えています。</p>
2	今後の進め方	<p>学校統合には賛成。以下の項目実現を中心に検討してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒により良い教育環境 ・地元住民や利用者が安心・安全をもって利用し暮らせる環境 ・他市町村の羨望的になるような魅力的な環境 <p>市がイニシアティブを持って道筋を作っていくことが必要である。</p> <p>統合と判断した場合いつまでに完了すべきなのかを逆算してスケジュールを立案してほしい。また、学校整備（既存の学校を使用する場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合）などの時間と費用が大きくかかる項目から、おおよその期間等を試算しスケジュールを立案してほしい。</p> <p>丁寧に検討することは大切であるが、おおよその検討期間を提示すべきである。期間が有限であればスピード感をもてる。</p> <p>どれかの学校に統合される場合、それぞれのメリット・デメリットを総合評価した比較表がほしい。また、学校の大きさや通学距離の問題及び費用の問題などで現実的ではない案があれば一覧でほしい。</p>	<p>学校統合に向けた検討にあたっては、様々な観点からの検討が必要になりますが、学校は、子どもたちが生活し、学び、成長する場でありますので、何よりも、子どもたちにとってより良い教育環境を実現することに重点を置いて進めることとしています。</p> <p>今後の検討においては、市から具体的な案をお示しし、保護者や地域の方と丁寧に対話や議論を積み重ねていきます。</p>

No.	分類	意見の要旨	市の考え方
3	通学	地域の方からすれば、自分の地域に学校があつてほしいことは理解できるが、公金で運営される以上、財政の最大効率化は避けられない。そのため3校合併が望ましい。ただし、児童生徒の登下校の安全は最大限考えられるべきである。	<p>学校統合に向けた検討にあたっては、様々な観点から検討をしていきます。</p> <p>学校を統合することとした場合の通学については、子どもたちの登下校の安全を確保するため、安全な通学路の設定のほか、通学用のバスの運行についても検討していきます。</p>
4	学校施設	学校統合後、グループふじとうやノキシタプレイス等で施設を残して頂いてはいますが、学校体育施設開放ではなくなった場合、抽選だと春日井市はなかなか場所の確保ができません。学校体育施設開放の場が益々減ってしまいます。	学校を統合することとした場合の統合後の体育館やグラウンドのあり方については、別に検討を進めていきます。
5	少人数学級	市教育委員会は「適正規模」として学級「数」で統合を考えていますが、保護者の意見にもあるように「きめ細やかな指導」ができるかどうかで考える必要があると思います。神屋小学校と西尾小学校から見ると、1学級の児童数が大幅に増えて本当に「きめ細やかな指導」がなされるか心配になることと思います。坂下小学校についても統合後は今以上に1学級の児童数が増えるので、「きめ細やかな指導」という観点からはメリットはないように思います。そう考えると文科省の考えにもあるように「少人数学級」の良さを活かすことのほうが「きめ細やかな指導」がなされると思われまます。百歩譲って統合したとして新しい学校での「きめ細やかな指導」を確保するための指導内容、方法を今以上に具体的に明記することが保護者の気持ちに沿うことに繋がり、誇れる春日井の教育を創造することに繋がると思います。	<p>学校統合の検討にあたっては、1学級あたりの児童生徒数が少ない「少人数学級」と学校（学年）全体の児童生徒数が少ない「小規模校または過小規模校」を切り分けて考える必要があると認識しています。</p> <p>少人数学級は、教員が一人ひとりの児童生徒の状況をきめ細かく把握しやすく、個々に応じた指導ができるなどの効果があります。愛知県では国に先駆けて、令和8年度から中学2・3年生についても段階的に40人学級を35人学級へ移行することとしており、本市においても同様に進めていく考えです。</p> <p>一方で、小規模校または過小規模校においては、クラス替えができないことにより、多様な考えに触れたり、切磋琢磨する機会が限定されたり、人間関係が固定化しやすくなったりするなどの傾向があります。また、運動会や文化祭などの集団活動において、児童生徒数が少ないことにより、教育活動に制約が生じることもあります。</p> <p>本市としては、クラス替えができる一定の児童生徒の規模を確保した上で、個々に応じたきめ細かな教育を提供していくことが重要であると考えています。</p>

No.	分類	意見の要旨	市の考え方
6-1	アンケート	アンケート結果について、結果よりも前に質問項目に問題があると思います。初めに「適正規模」で「複数クラス」だと「切磋琢磨できる」や「たくさんの友達ができる」など好印象を与え、小規模校の教育のよさには触れられないまま、アンケートに答えさせています。誘導と感じます。「何も決まっていない」といいながら、統合する方向性をもうすでに決めているかのような進め方に大きな違和感を感じています。	<p>アンケートは学校統合を前提にしたものではなく、学校の適正な規模や配置の検討を始めるにあたり、保護者や地域の皆様から、子どもたちにとって魅力ある学校づくりのためのご意見を広くお聞きするために実施したものです。</p> <p>今後は、保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する懇談会において、皆様のご意見やご提案をお聞きしながら、統合の必要性を含め、より具体的な内容について検討していきます。</p>
6-2	少人数学級	保護者も、子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育を重要と考えています。「適正規模」で本当にきめ細やかな教育がなされるのでしょうか。統合されて35人2クラスなどになってしまうのは、きめ細やかな教育がなされないと思います。	<p>学校統合の検討にあたっては、1学級あたりの児童生徒数が少ない「少人数学級」と学校（学年）全体の児童生徒数が少ない「小規模校または過小規模校」を切り分けて考える必要があると認識しています。</p> <p>少人数学級は、教員が一人ひとりの児童生徒の状況をきめ細かく把握しやすく、個々に応じた指導ができるなどの効果があります。愛知県では国に先駆けて、令和8年度から中学2・3年生についても段階的に40人学級を35人学級へ移行することとしており、本市においても同様に進めていく考えです。</p> <p>一方で、小規模校または過小規模校においては、クラス替えができないことにより、多様な考えに触れたり、切磋琢磨する機会が限定されたり、人間関係が固定化しやすくなったりするなどの傾向があります。また、運動会や文化祭などの集団活動において、児童生徒数が少ないことにより、教育活動に制約が生じることもあります。</p> <p>本市としては、クラス替えができる一定の児童生徒の規模を確保した上で、個々に応じたきめ細かな教育を提供していくことが重要であると考えています。</p>

No.	分類	意見の要旨	市の考え方
6-3	今後の進め方	<p>そもそも何も決まっていなはずなのに2回目の説明会は「統合にむけた」意見交換会であったし、統合するならどんな学校を望むかなど、統合するメリットについては議論され、デメリットについては十分に議論されていません。参加者の少なさも大変問題に感じています。このような状況にも関わらず今後は選抜された人のみで構成された委員会で議論され進められていくことに反対です。もう少し地域の意見にしっかりと耳を傾ける必要があります。</p>	<p>第1回意見交換会の名称を「小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討」としたところ、参加者から「趣旨や内容が分かりにくい。」という意見を多くいただいたことから、第2回意見交換会ではより具体的に認識していただくため、「学校統合に向けた」との表現を用いました。</p> <p>今後は、保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する懇談会において、統合の必要性を含め、より具体的な内容について意見交換を行っていきます。懇談会は公開で行うとともに、必要に応じて坂下中学校区で意見交換会を開催するなど、引き続き保護者や地域の方と丁寧に対話や議論を積み重ねていきます。</p>
6-4	魅力ある学校づくり	<p>統合することも小規模校として存続させることも自治体が判断することができます。「子どものため」「適正規模」を使い、費用削減できる統廃合を安易に選ぶのではなく、春日井の子どもたちにとって何が本当にいい教育なのかを議論しつくした上で検討を進めてほしいです。</p>	<p>学校統合に向けた検討にあたっては、様々な観点からの検討が必要ですが、何よりも、子どもたちにとってより良い教育環境を実現することに重点を置いて進めることとしています。</p>
6-5	通学	<p>通学について、坂下中学校区の小学校を統合するとバスを使わなければ通学できない子どもが出てきます。子どもは地域で育つものであり、小学生にとって徒歩圏内が地域です。子どもの生活圏から学校が飛び出してしまうのは、放課後の子どもの生活が破壊されてしまいます。子どもの権利条約第31条「子どもが、休息しかつ余暇をもつ権利、その年齢にふさわしい遊び及びレクリエーション的活動を行う権利、並びに文化的な生活及び芸術に自由に参加する権利を認める」とあります。バス通学では時間に制約が生じ、十分な余暇遊びを行う時間が少なくなってしまうと思います。バス通学でなくても今よりも遠い通学路で通学時間がかかってしまう子どもも心配です。また、安全面においても心配です。</p>	<p>学校を統合することとした場合の通学については、子どもたちの登下校の安全性や通学時間などを考慮し、安全な通学路の設定のほか、通学用のバスの運行について検討していきます。</p>
6-6	子どもの家	<p>子どもの家について、統合されても希望する家庭は全員子どもの家に通えるのでしょうか。学年で制限が加えられたり、人数が多くなることで子どもたちにストレスがかかったりすることが心配です。放課後の生活にも課題が多くあります。</p>	<p>子どもの家は、放課後の子どもの居場所として欠かせないものと考えています。学校を統合することとした場合、具体的な運営方法などについて検討していきます。</p>

No.	分類	意見の要旨	市の考え方
6-7	小中一貫教育	小中一貫校(義務教育学校)について、つくば市の検証では、小6の子どもたちが十分に育たない、精神的に不安定になる、施設面で無理があるなど多くの課題が残り、今後は通常の小学校と中学校を設置していく方針に変えたと聞きました。このような理由から小中一貫校には反対です。	小中一貫教育には様々な形態があります。今後、懇談会での対話や議論をはじめ、他自治体での実施状況などを踏まえ、導入するかどうかを含め検討していきます。
6-8	今後の進め方	何より「こんな学校を作りたい」「こんな地域を作りたい」「人が集まる春日井市にしたい」「跡地はこのようにして廃れないようにする」など、市の方針がしっかりと示され、話し合いが進むことを望みます。学校はその地域と切ることができない、とても大切な場所だからです。(特に西尾小学校を心配しています。)	今後の検討においては、市から具体的な案をお示しするとともに、学校は地域コミュニティの核であること、また、地域のまちづくりのあり方とも密接に結びついていることを踏まえ、保護者や地域の方と丁寧に対話や議論を積み重ねていきます。
7-1	少人数学級	<p>「適正規模」という考え方は子どもにとって必要なのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数の方が丁寧な指導が受けられます。統合すると少人数ではなくなる。 ・いじめの対応について、そもそもいじめが起きるのは大きなストレスを子どもたちが受けているからで、そのストレス自体をなくすことが根本的な解決策です。クラス編成をしても競争教育を受けていれば新たないじめが起こり、学級編成では解決できません。本質的な解決をこそ求めるべきであり、これに乗じて2クラス以上でなければという適正規模というのは根拠がありません。 ・切磋琢磨、社会性が育つなども教育的に根拠がありません。廃校になった地域は過疎化がさらに進みます。 ・西尾小学校の地理的特性を生かして、自然の中でゆったりと学ぶ事ができる特別な学校として、統合せずに不登校児童生徒に対応した学校へシフトするということはどうでしょうか。春日井市は不登校の数が他より多く、今の学校のやり方になじめない子どもたちが多。学校が子どもの実態に合わせるのではなく、子どもが学校のやり方に合わせることを求めています。合わなければドロップアウトするしかないのでしょうか。 	<p>学校統合の検討にあたっては、1学級あたりの児童生徒数が少ない「少人数学級」と学校(学年)全体の児童生徒数が少ない「小規模校または過小規模校」を切り分けて考える必要があると認識しています。</p> <p>少人数学級は、教員が一人ひとりの児童生徒の状況をきめ細かく把握しやすく、個々に応じた指導ができるなどの効果があります。愛知県では国に先駆けて、令和8年度から中学2・3年生についても段階的に40人学級を35人学級へ移行することとしており、本市においても同様に進めていく考えです。</p> <p>一方で、小規模校または過小規模校においては、クラス替えができないことにより、多様な考えに触れたり、切磋琢磨する機会が限定されたり、人間関係が固定化しやすくなったりするなどの傾向があります。また、運動会や文化祭などの集団活動において、児童生徒数が少ないことにより、教育活動に制約が生じることもあります。</p> <p>本市としては、クラス替えができる一定の児童生徒の規模を確保した上で、個々に応じたきめ細かな教育を提供していくことが重要であると考えています。</p> <p>また、いじめや不登校の対応につい</p>

No.	分類	意見の要旨	市の考え方
			ては、学校統合に関わらず、今後も引き続き取り組んでいきます。その中で、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）については、不登校の児童生徒数の推移も注視しながら、その必要性を含め、調査研究をしていきます。
7-2	通学	<p>バス通学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス通学をしてまで大人数の学校へ統合される必要はないと思います。（西尾小学校） ・瀬戸市のように採算が取れなければスクールバスはなくなり、乗り合いバスになる可能性があります。その際の費用や安全面など不安材料は多いのではと思います。 ・時間に制約され、放課後一斉に帰らなければならない。朝、諸事情でバスに乗れなかった場合どうやって登校するのかなど徒歩通学にはない数々の問題点が生まれます。 	学校を統合することとした場合の通学については、子どもたちの登下校の安全性や通学時間などを考慮し、安全な通学路の設定のほか、通学用のバスの運行について検討していきます。
8	今後の進め方	<p>人口減少による統合については、仕方がないことだと思う。どうしていきたいか、意見を聞くことも大事だとは思っている。しかし、全てを聞こうとするのは無理がある。</p> <p>まずは、いつまでに統合するかを決めてほしい。工事が間に合わなくて時期がずれ込むのであれば、それが分かった段階で公表すれば良い。いつまでにやるか、それを決めない限り、話は全く進まない。</p>	<p>今後は、保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する懇談会において、統合の必要性を含め、より具体的な内容について意見交換を行っていきます。その中で、市から具体的な案をお示しし、保護者や地域の方と丁寧に対話や議論を積み重ねていきます。</p>
9	今後の進め方	<p>神屋小学校区で0歳児を育てる保護者です。</p> <p>早急にこの地区の小学校、中学校の統合を希望します。坂下中学校も別の地区の学校と統合してください。2030年には実施してもよいと思います。</p> <p>人とのつながりや出会いは子どもの経験や自信、価値観形成に大きくかかわります。少ない人と暮らすということはそれらを放棄しているのと同じです。</p> <p>登校方法はバスを使ったり送迎すればすみますし、熱中症・降雪対策は時間をずらしたり荷物を工夫したりすればすみます。お金と運用方法で解決できますが、人との関わりはお金でも運用でもどうにもできません。</p> <p>とにかく、学校に沢山の人が集まる事を考えてほしい。生きる世界を狭いまま青年期にさせないでください。</p>	<p>学校生活では、児童生徒が多くの友達と関わり、多様な考え方を学びながら、社会性を育てていくことが大切であると考えています。学校統合に向けた検討にあたっては、様々な観点からの検討が必要ですが、何よりも、子どもたちにとってより良い教育環境を実現することに重点を置いて進めることとしています。</p>

No.	分類	意見の要旨	市の考え方
10-1	少人数学級	アンケートで、2学級以上が適正規模という前提があるが、いじめがあったときにクラス替えできるということがいじめの解消にはならないので、いじめが起きないストレスの少ない楽しい学校をまず考えるべきだと思う。少人数学級で丁寧な指導がされて、今のままでよいという意見がすくい上げられていないのではないかと。適正規模にするのに賛成か反対かと問われれば「反対」と答えるにいくのは当然である。	<p>学校統合の検討にあたっては、1学級あたりの児童生徒数が少ない「少人数学級」と学校（学年）全体の児童生徒数が少ない「小規模校または過小規模校」を切り分けて考える必要があると認識しています。</p> <p>少人数学級は、教員が一人ひとりの児童生徒の状況をきめ細かく把握しやすく、個々に応じた指導ができるなどの効果があります。愛知県では国に先駆けて、令和8年度から中学2・3年生についても段階的に40人学級を35人学級へ移行することとしており、本市においても同様に進めていく考えです。</p> <p>一方で、小規模校または過小規模校においては、クラス替えができないことにより、多様な考えに触れたり、切磋琢磨する機会が限定されたり、人間関係が固定化しやすくなったりするなどの傾向があります。また、運動会や文化祭などの集団活動において、児童生徒数が少ないことにより、教育活動に制約が生じることもあります。</p> <p>本市としては、クラス替えができる一定の児童生徒の規模を確保した上で、個々に応じたきめ細かな教育を提供していくことが重要であると考えています。</p>
10-2	通学	西尾小学校は統合されれば通学が困難な地域にあり、バス通学には子どもや保護者への負担が様々に生じることが考えられる。子どもの自由に遊べる時間が保証されないこと、登下校の安心、安全も懸念が大きい。	学校を統合することとした場合の通学については、子どもたちの登下校の安全性や通学時間などを考慮し、安全な通学路の設定のほか、通学用のバスの運行について検討していきます。
10-3	不登校対策	「統合」ということだけは確定して検討を進めている。「新しい学校」という前に、今ある学校を少人数の丁寧な指導ができるという魅力も含めて、不登校の多い春日井で不登校対応ができる学校などを考えてほしい。	不登校の未然防止や、不登校で苦しんでいる子どもに対しては、学校統合に関わらず、今後も引き続き取り組んでいきます。
11-1	その他	資料1 ページ7行目 「子どもたちの数の減少により」以降の文章について ・「標準的な規模を下回る」 「標準」には正しいというニュアンスがあるた	「標準的な規模を下回る」の「標準」という表現は、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第41条から引用しており、原案のとおりと

No.	分類	意見の要旨	市の考え方
		<p>め、「規模が小さくなる」に修正する。</p> <p>・「集団の中で・・・社会性を身に付けていくために」</p> <p>今の学校は社会性を育てる価値観以前に、自分が自分らしく過ごせる安心安全感と自分を認められる自己肯定感を育てられていない。社会性を強調するからこそ、不登校が増えているのではないか。</p> <p>・子どもたちにとってより良い教育環境＝適正規模</p> <p>そもそも子どもたちにとって、「適正」とは何か。学級数に特化して考えるのではなく、もっと深く考えることの必要性を感じる。</p>	<p>する考えです。</p> <p>学校生活では、児童生徒が多くの子と関わり、多様な考え方を学びながら、社会性を育てていくことが大切であると考えています。学校統合に向けた検討にあたっては、様々な観点からの検討が必要ですが、何よりも、子どもたちにとってより良い教育環境を実現することに重点を置いて進めることとしています。</p>
11-2	魅力ある学校づくり	<p>現在、春日井市の公立義務教育の学校において、一番考えなくてはならないのは、「学校規模」ではなく、「学校に行きたくない子どもの増加の現状」をどうするかであると考えます。</p> <p>この学校統合の検討は、子どもにとって「より良い学校」とは、「魅力的な学校」とはを、根本的に考え議論する良いチャンスと考える。</p> <p>(例) 瀬戸市の施設分離型小中一貫校の光陵学園「みつば小中学校」のように、コンセプトをしっかりと考えることが先だと考える。「明日また来たいと思える学校」などは、実に「こどもまんなかスクール」といえるのではないかと。</p>	<p>学校統合に向けた検討にあたっては、子どもたちにとってより良い教育環境を実現することに重点を置いて進めることとしています。</p> <p>その中で、魅力ある学校づくりとして、小中一貫教育や特色あるカリキュラムの導入などを検討していきます。</p>
11-3	今後の進め方	<p>アンケートにおいて、子どもの声がどれだけ反映されているか、大変疑問に感じた。「複数学級を望む声」「学校において重要と思うこと」というような問いかけでは、誘導的な感がぬぐえない。子どもにも「学校の統合や廃校についてどう思うか」「どんな学校になるとうれしか」など意見を求めることをすべきではないのか。</p> <p>子どもの意見を聞くことは、子どもの権利条約(春日井市こどもの権利条例)の意見表明権を具体化する絶好のチャンスとも思う。他地域では、まさに子どもが声をあげて変化したという情報を聞いたので、その進め方も大いに参考にしたい。</p> <p>統合について、西尾小学校は昔から小規模であるし、校区の方々はその良さを知っているの、反対の保護者が一番多いのではないかと。また、離れているので統合先への通学も難しく、地の利を生かし、春日井市の中で山間留学的な、校区を外した特色ある学校にしたら良いと思う。</p>	<p>学校統合に向けた検討にあたって、子どもたちの意見を聞くことは重要であると考えています。子どもたちの意見を十分に尊重しながら検討を進めていきます。</p> <p>西尾小学校に関するご提案については、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	分類	意見の要旨	市の考え方
11-4	魅力ある学校づくり	<p>小中一貫校にしても、そのまま残すにしても、春日井市全体で、統計上の子どもの減少を待っているのではなく、統合の議論に合わせて、「子育てしやすい春日井市」として子育て世代にアピールする都市計画とともに、打って出るようなアイデア（魅力ある学校）を提示すべきと思う。それには、教育委員会だけではなく他の関係の課との話し合いも必要になると思う。</p> <p>その例を次のとおり示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せめて低学年で通知表をなくす(成績で差別化は子どもの権利に反する) <p>成績を付けることで(特に低学年で)子どもにプラスになることを、本人も保護者も教員も実感はしていない。成績を付けないことや簡素化することで、現場での多忙な働き方が改善できることは明らかである。子どもとの対話は増えるに違いない。また、中学における定期テストも大事な思春期を成績で追い立て灰色にすることは、発達心理学的にもよくないと考える。理解できたかどうかを測る単元テストで充分である。それも再度挑戦できるようなシステムをとれば、子どもたちのやる気も湧いてくる。(子どもたちからの意見を聞いてみてはどうか。)</p> <p>高校受験を盾に、中3になれば頑張るとの教員の古い姿勢は断ち切らなければならない。高校受験で人生が決まるような対応は、子どもを追い詰める。高校無償化で、子どもの心への負担も少しは減るといいが、時間をかけて方向を決めることができるとうい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週一定時間の自由学習(探求学習でもOK)を保障する時間割。これだけで、不登校が減ったとの実践もある。 ・学校行事に子どもの意見を出せるシステムの学校 ・イエナプラン的な教え合う学校 ・地域の人たちとの交流を定期的に進める学校 ・文科省の提示している35人学級を押し頂くだけでなく、現在の少人数を生かした子どもたちとの対話を生かした実践を進める学校 ・子どもの権利条約(春日井市子どもの権利条例)を継続的に学ぶ学校 ・実は人権教育である「包括的性教育」を縦につなげる学校 	<p>学校統合に向けた検討にあたっては、教育委員会だけではなく、必要に応じて市の関係課と連携し検討していきます。</p> <p>また、今後組織する懇談会には、保護者や地域の方、学校関係者など様々な立場の方に参画していただき、具体的な検討をしていきます。</p> <p>いただいたご提案については、今後の検討の参考とさせていただきます。</p>

No.	分類	意見の要旨	市の考え方
		<p>一番重要なのは、子どもにとって自由があること。指導者や保護者には、常に評価で選別しない姿勢と個々の個性（人権）を認め、見守る姿勢と考える。</p> <p>まずは、子ども自身が行きたくなる、そして保護者が魅力を感じる学校を、考え募ること。現場の教師からもアイデアを募ることもよいと思う。これらの案は、予算はかからず、実現可能なのではないか。</p>	
11-5	学校施設	<p>統廃合についてたくさん話し合っても、予算面で頓挫した地域も多々あると聞く。</p> <p>今ある建物を生かして、修繕しながら、地域の交流の場として空き教室を使ったり、老人や保育園などとの交流などに使うことも有意義ではないかと思う。</p>	<p>学校統合に向けた検討にあたっては、様々な観点から検討をしていきます。</p> <p>全国では、地域の方が利用することができるコミュニティスペースの設置や、他の公共施設との複合化や共用化など、様々な取組が進められています。</p> <p>一方で、不特定多数の方が利用する公共施設を併設する場合は、児童生徒が落ち着いて学習することができる環境の維持や、安全の確保、動線の分離など、様々な課題が想定されるため、慎重に検討していきます。</p>